

3月1日、卒業式を挙行し、晴れて37回生が卒業証書を手に入れました。卒業生代表の**大泉花奈**さん（下写真3年・白石南中出身）は「永遠に生きるかのように学べ」とい



うガンジーの言葉を引き、学び続けることで「東北の復興、日本の進歩、世界の発展に貢献して行きます」と、未来に向けた答辞を述べました。名取市教育長様、市内中学校校長先生を始め、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り御礼を申し上げます。本校はこれからも地域に貢献できる人材を育成して参ります。今後とも応援をよろしくお願いいたします。

また3月5日、式当日インフルエンザのため出席できなかった卒業生に、改めて卒業証書が授与されました（右写真）。会場には同級生も駆けつけ、温かな門出の式になりました。



3・11なとり関上追悼イベントに参加

名取北高から33人が運営に参加



震災から7年目の3月11日、名取市役所前で開催された追悼イベントにボランティアとして参加し、絵灯籠の組立・設置・ろうそく点灯等の作業を行いました。多くの市民の皆様との運営を通し、震災を語り継ぐことや命の大切さを改めて感じた鎮魂の日となりました。**山田司郎**市長様、**佐々木悠輔**実行委



絵灯籠の組立作業に協力して行う

員長様（本校19回生）を始め、多くの皆様にお声掛けをいただきましたこと、感謝申し上げます。

「ボランティアに参加して」

郡山ひかり（2年・岩沼中出身）

私は今回初めてボランティア活動に参加しました。地元の方だけでなく県外の方など多くの人と一緒に、「お疲れ様」、「お手伝いします」など、自然と声を掛け合いながら活動できたことを嬉しく思います。そして何よりも、皆さんと笑顔で活動したことに、人の温かさを強く感じました。3・11を語り継ぐこと、復興のためにできることなど、今回参加して感じたことや学んだことを日々の生活に活かしていきたいです。また、今後、ボランティア活動にも積極的に参加していきたいです。



同窓会入会式を開催

2月28日、卒業生に対し同窓会入会式が行われ、同窓会長 **郷内知明**さん（右写真）から激励の言葉をいただきました。生徒を代表して**森 楓**さん（左写真・3年・村田一中出身）が「北高で学んだことを活かし社会に貢献したい」と述べました。



「大震災を語り継ぐ北高生の集い」開催

ダンスインストラクター**佐藤綾音**さんが講演

2月28日、第4回「大震災を語り継ぐ北高生の集い」を開催しました。仙台89ERSチアーズアシスタントディレクターの**佐藤綾音**さん（右写真）から、「夢を通じた心の支援～笑顔のチカラ～」のテーマで講演いただきました。震災時、高校1年生で、所属していた仙台89ERSチアーズでの避難所訪問等ボランティア活動の経験やその後の東京、アメリカでの挑戦を紹介



震災時、高校1年生で、所属していた仙台89ERSチアーズでの避難所訪問等ボランティア活動の経験やその後の東京、アメリカでの挑戦を紹介

いただき、「笑顔は人を励まし励まされる」というお話を通して、復興に向けて自分たちに何ができるかを考えました。

講演を聞いて

長尾美菜（2年・増田中出身）

佐藤さんは高校時代に数々のボランティア活動を行っていて、チアリーディングというものは沢山の人を笑顔にすることができると素晴らしいものだなと思いました。私は佐藤さんが指導しているチームと、一度ダンスイベントで共演したことがあります。その時もチアで沢山の元気と笑顔をもらいました。自分の好きなことだからこそ人を勇気づけられる。ボランティアは身近なところから始められることに気がきました。私もダンスでたくさんの人を笑顔にできるようになりたいです。



北高に隣接し、この数年は「志教育」で生徒会の挨拶運動や、教員の授業研究などで連携を行っている増田中学校。中学生との交流は高校生が成長する機会にもなり、教員同士も学校間連携の重要性を再確認するきっかけになっています。今回は、増田中学校の宮下文憲校長先生から北高生へメッセージをいただきました。

北高生に寄せて

名取市立増田中学校長 宮下文憲

Q 増田中から見た北高生の印象はいかがですか？
A 高校生活を楽しむ典型的な高校生で、笑顔も多い印象。一つアドバイスするとしたら、「もっと目線を遠くに持ち、何にでも手広く構えて、アツい高校生でいていいんじゃないかな」。

Q どんなことで中・高が連携して取り組むと思いますか？
A 行事でお互いを招待できると面白いでしょう。最初は生徒会や交流ある部活または先生同士だけでもいいのではないかな。

Q 北高生へ激励メッセージをお願いします
A はい。ではここからメッセージ形式で。

北高生諸君、高校生になると世界が変わりませんでしたか。中学校の時より急速に、興味のあることにのめり込み、興味ないことには関わらなくなり、まだ制約が多いにしても、自分の決断で自分の周りの色々なことが動くようになる。高校時代は「自由」も「時間」も、人生の中でも多い時代なんです。そんな時代は長くはないのに、中には、その時を、もったいない使い方をしてしまう人もいます。君たちはまだ掘り当ててない「金鉱」のようなもので、可能性の塊なのだから、一生懸命に自分を掘り深めて欲しい。

でも「何をしたらいいかわからない」という人へ。大切なことは「めんどくさい」という言葉を一切使わないことでしょう。「どうしようか迷ったことはやってみる」ことにして、あちこち掘ってみるんですよ。実際にモノに触れることも大切。バーチャルの世界はモノに触れませんかから論外。この時期、分厚い友情のドラマや悲しく苦しく時々楽しい恋愛も常道。一度は人生も深く考えましょう。もちろん「燃える部活動」もあり。「濃い時代」の方が面白いです。ドイツの大詩人ゲーテは「私が神ならこの時代を人生の一番最後に置く」と言ったほど、素敵な時代にいることを忘れずに。（私だって戻りたい。）

北高生諸君、君たちが、「忘れられない高校時代」をつくり、自分の可能性を掘り当てて、自分の人生を胸を張って歩き、幸せの花を見つけることを、隣の中学校から願っています。



小中高連携「名取増田児童生徒サミット」が名取市長を訪問



今年度、増田中学校区の中小高（増田小、増田中、増田中、名取北高）が連携し、名取、美田園駅前の朝のあいさつ運動に取り組んで来ました。2月26日、山田司郎名取市長を訪問し、笑顔や心の輪が広がるまちづくりのため、今後ともご協力いただくようお願いしました。

今年度の事業を振り返って

生徒会長 松本裕也（写真前列右から2人目・2年・逢隈中出身）

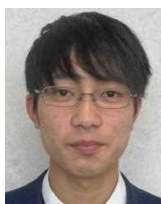
「名取増田児童生徒サミット」からの要望書を提出するため名取市役所に伺いました。あいさつ運動でのジャンパーの作成などをお願いに、山田名取市長様は「全て前向きな方向で検討する」とおっしゃってください、私たちはとても嬉しく、今まで志教育支援事業という活動に携わってきて良かったと強く思いました。また、あいさつをするときに大事なことにしても参考となるアドバイスをいただき、充実した時間を過ごすことができました。今まで私たちが行ってきた志教育支援事業の活動はとても貴重な経験であり、素晴らしい財産になったと思います。4月から北高生は「あいさつで心が通うまちづくり」に貢献していきたいです。

仕事について知るパネルディスカッション

2月13、20日の2日間、「先輩や地域の方から仕事の話聞く」パネルディスカッションを開催しました。1学年生徒は9人の講師の皆様のディスカッションを通し、仕事のやりがいや楽しみについて考えました。



● 岩佐萌乃（1年・坂元中出身） 仕事のやりがいを感じる瞬間は「ありがとう」「あなたのおかげでできました」と言われた時です、という話が心に残りました。また、仕事を決める「きっかけ」は、仕事を続ける支えになっている、ということ聞き、進路決定に向けて「きっかけ」の大切さを感じました。



● 増田維路（1年・岩沼西中出身） 仕事のやりがいについて、講師の皆さんが揃って「ありがとうの感謝の言葉とお客様の笑顔」と仰っているの聞き、「人の役に立てることが仕事の張り合いになっているんだな」と感じました。やりがいを見つけられるよう、学校生活を有意義なものにしていきたいです。



【宮城県名取北高等学校】

〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田103

TEL 022-382-1261 FAX 022-384-8976

HP <http://natorikita.myswan.ne.jp>

mail chief@natorikita.myswan.ne.jp



（担当）教頭・町田尚彦

（学校だよりのご感想をお寄せください）

学校評価アンケート結果を
ホームページに掲載しました。